

## 成果検証報告書

## 【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和2年度

市町村名	新座市					
提案事業名	ブラジルオリンピック選手団の事前トレーニングキャンプ施設整備&オリンピック・パラリンピック気運醸成事業					
事業期間	平成30年度 ~ 平成30年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 事前トレーニングキャンプの円滑な運営					
	(成果検証の具体的な方法) 事前トレーニングキャンプが円滑に運営されることを目標とする。					
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	A	
	従前値 (平成30年4月時点)	0	目標値 (令和2年3月時点)	1	実績値 (令和2年3月時点)	3
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)		
住民への公表状況 及び特記事項		市ホームページ、広報紙、SNS等で周知を行った。				

## 【事業効果の整理・原因分析】

平成30年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 総合運動公園トイレ洋式化事業	○	キャンプの運営を支援するため、ブラジルオリンピック選手団が使用する予定であった公園内トイレ2か所について、外国人が利用しやすいよう和式便器を洋式便器に改修した。 平成31年度は陸上、マラソンスイミング、空手の事前トレーニングキャンプを行ったが、施設の改修により、より円滑な運営が実現できた。
② 市民総合体育館トイレ洋式化事業	○	キャンプの運営を支援するため、施設整備の一環として、ブラジルオリンピック選手団が使用する体育館内トイレ9か所について、外国人が利用しやすいよう和式便器を洋式便器に改修した。 平成31年度は陸上、マラソンスイミング、空手の事前トレーニングキャンプを行ったが、施設の改修により、より円滑な運営が実現できた。
③ 広報にいざへの射撃競技啓発漫画掲載事業	○	広報にいざにおいて射撃競技を周知するため、射撃競技を題材にした漫画「ライフル・イズ・ビューティフル」の作者サルミアッキ氏が発行した漫画を掲載したことで、会場自治体としてのPRを十分に行うことができた。
④ パラアスリート写真展と音楽鑑賞講座	○	人権週間(12月4日~10日)に併せパラアスリート写真展を開催するとともに、視覚障がいがあり、陸上競技アスリートとしてパラリンピックを目指した経験を持つヴァイオリニスト白井崇陽氏によるヴァイオリン演奏&トークショーを実施したことで、市民に対するダイバーシティ&インクルージョンの普及・啓発に繋がった。

## 【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	平成31年度は陸上、マラソンスイミング、空手の事前トレーニングキャンプを行ったが、施設の改修により、より円滑な運営が実現できた。 また、漫画掲載事業や音楽鑑賞講座等を通じて、会場自治体として、新座市が射撃会場であることや、ダイバーシティ&インクルージョンを市民にPRすることができた。
実施事業について 成果が不十分である点	新座市が射撃会場であることについて、昨年度と比較して浸透してきた実感はあるものの、完全に浸透しきってはいないと感じる。今後も、引き続きPRを強化していく必要がある。

<p>成果検証を踏まえた 今後の改善策</p>	<p>ブラジルの事前トレーニングキャンプについては、引き続きブラジルオリンピック委員会との調整を行い、より円滑な運営を実現するための施策等について検証を進めていく必要がある。 また、射撃会場であることの周知等についても、内容の強化、充実を図るとともに、更なる大会気運の醸成に努める必要がある。</p>
-----------------------------	--

(記入上の注意)

【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(O・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果O」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない